加治木町政だより
月1回發行
發行所　加治木町役場
發行人　美坂銀治
編集者　中元邦夫
印刷所　馬場印刷所
鹿兒島市泉町4　電1184

◇滯納者の方に◇

健全政財確立のため
一日も早く納税を

住みよい明るい平和な加治木は誰もが望むところであるが、豊かな郷土建設は、先づ納税に始まる、税務課に於ては、これまで督促状をだしたり、色々の方法で納税方すすめて來たが、未納者には最後的手段として四月から總動員で滯納處分にのり出しているが峠はまだ遠しといつた現状である

税務課より
徴税不振の打開と納税準備貯蓄

税收の確保が、國家並に地方財政に重大な影響をもつことは、敢て論を俟たないところであります、ひるがえつて我町昭和二十四年度税收を見ますと六月三十日現在調定額の七五%の低率を示して居るのであります、皆さんも御承知の通り、町税務課では、徴税不振の打開と決算處理のため、總動員で滯納整理に全力を傾注しておるのでありますが、不得止强制處分をなすものがあります、誠に遺憾に堪えませんが一人の滯納額が町財政に重大なる結果を招來することを思ふとき、やむを得ぬのであります

滯納者の中には、納税に對する誠意はあるが、色々の關係で心にもなく滯納されておられる方もありましようが、納期日までに皆納めされた多數の納税者があることをお考え下さいまして、自分一人の滯納額が町政運營の上に重大なる結果を來すことを思い、此の際直ちに納付下されます樣御願い致しますと共に町民の皆さんに本年度納税に對する心構えを新にして頂きたいのであります

本年度經濟の情勢の推移から予想される町民所得の低下と、改正地方税法案の不成立に伴う徴税期の「ズレ」は、各種税が後半期に重りますから納税は極めて困難となるものと思考されますので納税に對す施策が緊要事だと申しても過言でない

私は皆さんえ納税對策として、納税準備貯蓄をして頂く樣御願い致す次第であります

（税務課長）

議會の窓

會期　六月十九日　一日間

定例第三回町議會は、議案九件、陳情二件について六月十九日午前九時三十分より、町郷士館日本間で開かれた

林議長定刻に開會を宣し會期決定後直ちに議事に入る

○議案第三十九號　鹿兒島地方裁判所加治木支部等の敷地に關する件は、今般之が隼人町移轉反對の陳情書に記載する本町の條件を定めんとするもので、當局提案の「必要ある場合考慮し現在の借家人に賣渡すことに原案通り可決

○議案第四十號、下濱庶民住宅敷地賣却の件は、將來建物賣却する場合を約三〇〇坪の提供方町に於いて斡旋する、但し買收價格提供の方法代償等については追つて決定する」との原案を可決

○議案第四十一號、加治木町道認定の件は、既に町道として編入されしものの中戰災により台帳燒失のため一部不明のも之が再確認をなすと共に新編入のものについても原案通り可決

○議案第四十二號、火災復舊國庫負擔工事事前着工の件は、本年度より災害工事は、全額國庫が負擔（但し一件十五万円以上）することとなりたるが、正式の施工認可を待つて居ては、工事施工は遲延し更に被害が增入するので、事前着工の認可を受け早急實施せんとするもので原案通り可決

○議案第四十四號　寄附採納願受理の件は、反土吉原鹽入政二氏より消防用サイレン購入費として金五万円の寄附採納の申出あり、豫ねてよりこれが設置方要望されていた折柄感謝を以て受理することに可決

○議案第四十五號、財政調整資金短期借入申込の件は、地方税法の不成立による財源の空白狀態に對するため、短期借入金をなさんとするもので當百五拾萬円の大藏省預金部資金申込を原案通り可決

○議案第四十六號　第一回昭和二十五年度加治木町歳入歳出追加更正予算の件、消防用サイレン設置費、共濟組合補助、參議院議員選擧費、公債費等、公合計十七万六百五円の追加更正で何れも已むを得ざる經費で原案通の可決

○議案第四十七號　前收入役伊地知新氏外五名の慰勞金支給の件は、先般任期滿了で退職された前收入役伊地知新氏の外齊藤喜次郎、神田豊吉、鈴木吉太郎、坂下次郎吉及び上原直士の五氏に對する記念品代を贈呈せんとするもので原案通り支給することに可決

以上で議案の審議を終り次で陳情の審議に入る

◎加治木郵便局長より全郵便局官舍敷地買收に對する斡旋援助方の陳情については、之を採擇することに決した

○龍門司燒企業組合から窯修理に莫大なる經費を要するので、本町產業振興の見地から補助ありたいとの陳情については、委員會に附託し、審査の上採擇するや否やを次會で審議することにし、高工委員會に附託さる

以上で日程の全部を終り午后一時閉會した、敎學委員は、加中龍門分校の新築敷地を、商工委員は龍門司燒工場を町長商工課長等と共に視察した

主要行事
6月中

◎參議院議員選擧　4日
◎下水排水汚物清掃實施　1日—15日
◎ナトコ映畫　3日、15日—19日
◎公衆衛生週間　5日—11日
◎農地委員會　7日
◎農業調整委員會　9日
◎納税思想昂揚映畫會　21日—22日
◎民生委員會　26日
◎婦人學級
　柁城　20日、10日
　錦江　27日、10日

初の公職選擧法による
參議院議員の通常選擧を終えて

二十二年の四月選擧、近くは昨年の一月の衆議院議員選擧など當町の主な選擧を見るといづれも壓倒的な保守派の勝利である、だがこんどは異つた「革新」が斷然「保守」を壓えたのである、これは加治木町の政治史に特筆さるべきものだと云えよう

主權在民となつてから政治が身近なものになつたことは事實で、町民の政治に對する關心は選擧の毎に高まつていくようである、まだまだ理想の選擧からほど遠い面もあると思う

選擧當日有權者數			投票者數			棄權者數			投票率		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
四、四五五	四、三六〇	九、八一五	三、五四二	三、四八四	七、〇二五	九一四	一、八七六	二、七九〇	七九・四%	六六・六%	七一・五%

町長の發意で八五%以上の優秀成績を收めた次の部落を表彰することになつた（表彰基準男女別有權者二十名以上の部落）

投票區別	部落別	選擧當日の有權者數 男	女	投票者數 男	女	棄權者數 男	女	投票率 男	女
二區	今町	八七	九三	八〇	八三	七	一二	九一%	八八%
三區	西ノ原	四〇	八三	三五	二七	五	一一	八七%	九〇%
四區	永原西	三八	三三	三三	二二	五	一一	八七%	一〇〇%
〃	上葛浦谷	三三	三三	二四	二二	一	一	九一%	九一%
〃	隈原上	三五	三五	二四	二二	一	一	九一%	九一%
五區	東ヒナバ	三〇	三〇	二四	二二	一	一	九一%	九一%
六區	東中郷	三五	三〇	二四	二二	一	一	九一%	九一%
〃	宮田ケ平	二八	三三	二四	二二	一	一	九一%	九一%
〃	岩穴口	三三	三三	二四	二二	一	一	九一%	九一%
〃	石野	二九	二七	二四	二二	一	一	九一%	九一%
七區	中野	四四	四四	二四	二二	一	一	九一%	九一%
〃	楠原	三五	四九	二四	二二	一	一	九一%	九一%

選擧管理委員會　穗滿

圖書館の利用は誰でも出來る
手續きはかんたん

加治木町に町立の圖書館があることは誰でも御存じのことでしようけれども知らない方もあるかも分りませんからちよつと書かせてもらいます

昔は圖書館は唯今の役場だつたのですが、戰災で役場が燒けて、圖書館るが、町民の投ずる一票の力が、民主政治を左右するという自覺がよい政治を生むことになる、

前號の町政だよりで投票區變更による今度の參議院議員選擧の投票率の幾分の低下を氣にしていたが、豫想通りの實績でほつとした、然し男子に比し女子の方は依然として低調で一歩の前進をも見得なかつたことは、非常にさびしく、どこにその起因するところがあるか、結局町内全婦人の有權者が、折角の參政權を行使しきらないと云ふことでまことにおしい事だと思う

加治木町立の圖書館はもとの郵便局の裏の端山倶樂部をかりて移りました加治木税務署の前にあたります

圖書館は町民みんなのものです、遠慮なくいらして下さい

本を讀む手つづきとしては、圖書券を館員の人から買つて、それに住所や氏名と職業又は學生なら學校の名前をおかきになればよいのです圖書券は拾円です

此圖書券に自分の讀みたい本をお書きになればその本を出してくれます

讀みたい本はおうちへ持つて歸つても差支えありません、料金は一日が參円です、一日といつてもあくる日までのことですからまる一日です

皆さんのおかげで面白い本やためになる本、そして學校の予習や復習にも役立つような本がたくさん來ておりますからどうぞ來て利用して下さい青年團や婦人會のような團体でのお申込みは、割引きもいたします

どしどし御利用下さい

加治木税務署の前ですから、あの前をお通りになる時は、いつでもちよつとでもお寄り下さい、そして新聞でも雜誌でも讀んでいつて下さい

その他詳しいことは館員におたずね下されば屹度ていねいにおしえてくれます

加裁問題のため
町長等上京

加裁等隼人町移轉反對町民總蹶起大會後上部えの陳情準備が進められていたが去る二十九日町長、議長、青年團長一行上京し目下交渉中

人の動き

◎加治木中學校長湯川重雄氏退職、後任に元富隈小學校長吉嶺登氏

○加治木町商工會長に横山清氏

◎加治木町總務課長兼社會教育主事上原直士氏出水郡社會教育主事へ後任事務取扱者、總務課長に岩澤助役、社會教育主事に美坂助役、

◎税務署長二ノ村繁氏人吉税務署長へ、後任元大分佐伯税務署長上江洲正一氏

◎鹿兒島無盡加治木出張所長、川邊軍藏氏、鹿屋支店長へ後任元隼人支店長松山靜熊氏

◎加治木保健所長に元隼人保健所長德田正敏氏

◎全總務課長に元拂宿保健所總務課長內倉不二雄氏

◎縣税事務所長に元鹿兒島財務事務所池田義雄氏

◎全總務課長に元縣税務課平川一雄氏

◎加治木檢察審査會長に柚木德男氏

曾木町長郡社會教育
振興會會長に當選

郡下各町村長、全社會教育係、敎委出張所長、全社敎會育主事を以て構成する、郡社會教育振興會の會長改選が去る六月一日行はれ、其の結果、牛塚旧所長の後任として曾木町長が當選した

社會教育振興會は郡社會教育振興のための推進機關である、

○終戰後學制改革による六●三制の義務敎育によつて國民一般の敎育程度が高まつて來つゝある事は誠に喜ばしい。

しかしながら戰後の日本の經濟狀勢から、義務敎育すら受けられない不就學、長期欠席兒童の如何に多いことか。

○本縣の不就學者の總數を見るに、小學校、二〇六五名で在籍者の〇、九%、中學校一三七九名で在籍者の一、一%、小學校と中學校と著しい差異がある。小學校は上級になる程多く、中學は上級になる程少いといわれる。

○これを地域的に見ると、熊毛郡、揖宿郡、日置郡等すら受けられない不就學、長期欠席兒童の如何に多いことか。

○本縣の不就學者の總數を見るに、小學校、二〇六五名で在籍者の〇、九%、中學校一三七九名で在籍者の一、一%、小學校と中學校と著しい差異がある。小學校は上級になる程多く、中學は上級になる程少いといわれる。

○これを地域的に見ると、熊毛郡、揖宿郡、日置郡等、薩摩半島方面に比し、鹿屋、肝付郡、囎唹郡等、大隈半島方面がずつと多く、更に性別に見ると、女子の方が男子の一、五倍である。というのは女子出に對する親の敎育の關心がうすいのと、女は學門はいらぬというぬけきらぬ封建性が考えられる。

○長期欠席は小學校一九一八名で在籍者の〇、七%、中學校は三七一九名で在籍者の二、九%となり學年別、性別から見た比率は大体未就學兒童と同じである。中でも最も考えさせられるのは、本人も親も行きたい行かせたいと思いながら經濟事情のため出られぬ兒童が不就學數の五二%をも占めていることである。しかも我が姶良郡に於て決して少い方ではない。

○加治木町の長期欠席者は（不就學兒童も含む）小學校大体一五名で、○●五三%中學校では大体四十二名で、二●八四%にも上つている（本年三月末調査）

○日本が平和的文化國家再建に立ち上らんとしているとき、次代を背負う少年達のこの實態の結果は恐るべきものであると寒心に堪えない。

敎育に對するもつと深い親たちの理解を促すと同時に縣に於てもこれらの氣の毒な少年少女達にもつと何らかの方法を講じて頂きたいものだ。

林業からみた加治木の將來

まえがき

住み馴なた郷土ではあるがそれこそ一歩も前進していない我が加治木である、愛想がつきる筈であるが、先祖代々の土地であつて見れば住みにくかろうが見棄てる氣にもなれず矢張り昔の人が歩いて來たように毎日を送つてはいるが何とかして町の發展を翼う愛着心は持つている、自然に發展するような好條件が具はつていたら、加治木町もとうの昔に發展して今頃市にでもなつていだであろう、遺憾ながらお互の努力が足りなかつたのか只名所舊蹟だけの舊都で終るには餘りに寂びしいことだろう

（一）

古來加治木は船に由緒があつて、海外との交通が盛でそのため學問が傳來し、專ら學藝の興隆を見たのであるが然しながら産業開發による文化の向上は何等觀られなかつた憾がある

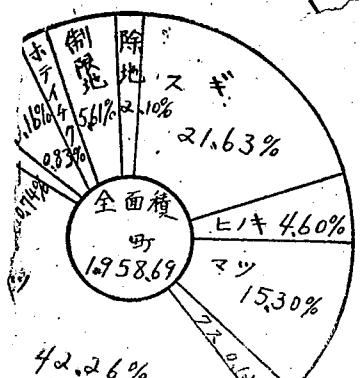
第一表　加治木町の森林面積その他

總面積	森林面積	比率	耕地宅地其他面積	比率	摘要
四、三九五町八六	一、九五八町六九	四六%	二、三八一町一九	五四%	總面積は鹿兒島年鑑による

鑛物資源に乏しいが、この區域にはそれに代はるべき森林資源がある、溫和多濕の此の地帶は森林育成に最適であつて、町内にも相當な森林資源蓄積があるが、森林地帶は僻地が普通であつて何れもが交通不便で先代からえいえいと育成して來だ森林も徒らに死藏されている

加治木町森林組合の調査に依れば町の面積の四六%は森林であることが分かる

第二表の百分率



第二表　樹種別面積

樹種	面積	材積
スギ	四三、五五町	一三、〇〇六石
ヒノキ	九〇・一七	三三、七八〇
マツ	三九・七五	四、九五〇
クス	二・三三	一、二九一
ザツ	八二七・四二	四九八石
クヌギ	一四・五三	四一八束
モウソウ	七一・五六	二、〇四〇束
マタケ	六一・九六	二〇石
ホテイチク	一六・六九	三七〇石
計	一、八〇七・四四	三四八、一六六石
制限地合計	一〇九・九一	一八八、五八八束
除地	一、九一七・三五	六、三九〇石
	四、〇・三	三五四、四五六石

斯かる森林資源の蓄積は子孫のためを想ふ深慮から仕立てられた遺産である、この一本の樹と雖と祖先の息吹が掛つていると云ふべきものであつて後繼者は之れが保續に當つては敬けんなる氣持でなければならないと思ふ、山は神秘をこめて永遠悠久に偉大である

加治木町の將來を想ふ時に過去を省みて以前でも各人の生活が裕かであつたらうとは想像出來ない幾多の記錄がある、

早くから開けた加治木町は人口が比較的多く特に農民だけでなく他の人と殆んど皆幾らかでも耕作に從事したため、耕地不足を來たし、能ふ限りの開墾をし干拓する外内職をして家庭工業的な製紙陶業竹細具等の奬勵があつた結果各種産業があつた振興した由である、

先人の遺業を受け繼いで其の後加治木町も繁榮を極めて來たのであるが不幸にして未曾有の戰災によつて一朝にして巨萬の富を烏有に歸した、戰災都市は復興計畫に依つてより以上に立ち直つたが、消費都市である加治木町は依然として人口過剰に惱みながら復興に邁進しているのである、この窮狀を打開するためには再檢討を要する現狀である

（二）

鹿兒島港務所の統計資料から加治木港の昭和十三、十四、十五年度移出入貨物數量を掲ぐれば次の通りである

第三表　昭和十三年度

品名	數量	金額
移出		
内地米	三二屯	六七、三〇五円
小麥	三	二、八三〇
土管	一	八〇
木材	五五三	三四、七二八
竹材及籐	五三	四、五九二
莚及菰	二	三六
叺及俵	一、二五	四、三〇〇
縄	三	五三
其他雜品	一五	五、一〇〇
計	一〇八五	一二九、一四四
移入		
食鹽	二三屯	七四一円
甘藷切干	一四	五、〇三八
機械用油	一	一三二
セメント	一八	三七八
豆糟	一二	九九〇
その他の肥料	三六	二、六九六
其他雜品	九	三六、八六〇
計	三五三	三六、八四五

第四表　昭和十四年度

品名	數量	金額
移出		
内地米	一、一六七屯	二七、二七四円
小麥	六六	一〇、八九〇
大豆	一	一八五
其他雜穀	四	三八
菜子	三〇	四、一〇〇
茶	二	一、六四
古鐵	一五	一五
石油空罐	九	二九三
其他金屬製品	三	一、五一一
瓦	九	一六二
木材	五、四二四	三四一、七二二
板	一、五五五	三九、〇九〇
竹材及籐	三〇一	三、六二二
莚及菰	八	三五六
叺及俵	八〇一	五六、六七三
縄	六	一四
ボロ	五	六
其他雜品	二	七三〇
計	九、三七九	七三、五三五
移入		
落花生	二屯	三六八円
食鹽	三	一九八
大根切干	九	二、一五五
黑砂糖	三	六三〇
揮發油	一一	一三〇
釘頭	一	二六七
其他金屬製品	五	二、五三〇
陶磁器	三	三〇〇
豆糟	三	六四八
其他肥料	六	四、八五五
板	三三	六五
縄	四	一、三四
其他雜品	一一〇	九六
計	三四	四三、一〇〇
		六五、六三〇

第五表　昭和十五年度

品名	數量	金額
移出		
牛	二屯	五九〇円
内地米	一六四	五、三四
小麥	一三三	四三、三〇四
茶	四	二、六二四
甘藷切干	一四	六四四
燒酒	五一	三六三、〇九四
麻袋	二五	二、四〇〇
セメント	二	六〇
木板	一〇〇	七、一〇〇
竹材及籐	三七	一、八三
	四三	六、三四二
外國米	二	五〇屯
澱粉	一	二七、四三〇円
大根切干	一四三	三三三
甘藷切干	一七	一七三
セメント	八、八三三	八〇
土管	八〇	一、〇八〇
過燐酸石灰	一五	二、三五五
其他肥料	四三	四三〇
骨粉	二	一六八
木炭	一〇〇	三、二〇〇
縄	二四	六〇

以上の表は鹿兒島から移出して加治木港に移入したものと、加治木港から移出して鹿兒島港に移入したものだけの統計であつて、鹿兒島港以外の港と加治木港の移出入貨物數量を知る方法がないが、これだけの資料でも判るように移出貨物の太宗は林産物である

如何なる形であるにしても遠からず講和條約が結ばれなければならないところで植林、保育の指導り行き届かないのは明港灣の條件は第一その輸送物資であつて、之なくしては港灣の發展は期し得られない、加治木港背後地の生産物で輸出品として見られるものは林産物が大部分を占めるのであつて、港灣發展の点から見ても林業振興は重要問題で愼重に檢討せらるべきである

林産物には主産物と副産物があつて、副産物も見逃し得ざる事業でありその將來性あるものを擧ぐれば第一に木炭である木炭は生活必需品であつて多言を要しないが、木炭に次ぐ重要産物として椎茸栽培が推奬せられている

第二に椎茸はビタミンD含有食糧品として國民の榮養保健上重要な食糧であり、大嗜好品で敗戰の今日貴重なる見返えり物資である、その栽培は作業容易で極めて趣味に富んでいる仕事である、更に原木も豐富であるから農山村の副業として好適の事業である、第三に樟腦は日本及中國の特産物で、特に南九州が生育の最適地である、樟腦はセルロイド、寫眞フヰルム、精腦、醫藥等に加工されセルロイド、寫眞フヰルム、精製樟腦は重要な見返えり物資である、日本の樟腦及樟腦油を利用加工處理する技術は研究上も生産にも優秀で世界一である、製腦は專賣制であり有望なる事業ではあるが、資源と生産コストの点から考慮して合理的な經營をなすべきであり、大いに樟の增植を必要とする

（三）

如何にして林業を振興するか、林業人は過去の無秩序時代から眼覺めて政府の林政革新の方針に則つて森林の經營に當らねばならないのは勿論であるが先づ最も緊要なることは伐採、造林に必要なる林道を通ずることである、道らしい道のないところで植林、保育の指導り行き届かないのは明

林の林産物搬出施設補助規定が出來て林道その他施設が補助を得て出來るようになつているので、積極的に之等を利用して森林開發に努むべきである、

加治木町森林組合の管内には、十二線の林道が計畫されているが中でも西別府嶽の林道は古くから着手して西別府道路を經て搬出しているが、幹線として西別府道路は勾配急で重車輛の通過による破損甚だしく、度々交通杜絶し輸送を阻害している狀態である、殊に山頂の稜線を通過するので別に谷川に添ふ林道が考慮されている、これは菖浦谷を中心とする流域の森林、國有二〇〇町歩、民有七〇〇町歩、利用區域内民有林蓄積五万石を對象とした計畫である、即ち湯之谷菖蒲谷間は搬出用幹線となり、それ以北の各線は培養線となる譯である、

其の他地域には夫々の搬出幹線から派出する林道が地元の要望に依つて計畫してある、之等の林道はすべて加治木市街地に向つて通じ、都市再建經濟復興に貢献せんとするものである

森林は戰後殘された日本の最大の國民的財産の一つであると謂われ、日本經濟復興に大きな役割を背負はされていることをよく認識し、林業人は林業本來の使命に立脚し、森林資源の確保に努めなければならない

筆者　加治木町役場　土木技師　時任泰

人口動態

世帯數	總人口	男	女
	人	人	人
4,412	20,266	9,706	10,560
4,429	20,363	9,754	10,609
17	97	48	49

木田地區

上向江町　二渡光良　小迫秋義
下向江町　持留國吉　美坂銀次郎
高井田　城義信　岩元慶藏
上木田　大脇篤彦　穗森親男
楠園東　宮田秀雄　小濱新之助
楠園西　六反吉蘭留吉
中福良東　森田志滿志
中福良後　北園君　北園親志
西之原　白尾親志　白尾親志
新中　山崎榮之助　上水流重志
ミロク　後藤チヨ　後藤八郎
須崎　郡山時美　東郡山忠志

西別府地區

濱村　井之脇末盛　池平榮造
岩原西　小野龍馬　小野龍馬
岩原東　西田茂熊　西田茂熊
西鹽入上　岡山秀康　岡山秀康
西鹽入下　今水流清二　塩屋政則
西鹽入中　豊留廣　有馬清晴
東鹽入　池田勝也　小濱光昭
中鹽入　木場喜一郎　永谷直熊
南鹽入　池田すま　池田すま
療養所　前田登　前田登
母子寮　堂免久子

柳田西　樗木淺次郎　市來政秋
柳田南　竹下武雄　藤元仁次郎
於里東　神村充義　新福勝
於里西　湯田重行　是枝英二
於里中　河野通義　堀善太郎
萩原　若松哲志　市來政美
西反土前　吉薗清　吉薗清春
西反土後　長谷武次　長谷武次
川原　中摩堅助　仮屋薗新三
竹下　岩下治百　白尾治
田中上　城國廣　城岡廣
田中下　野村武熊　野村武熊
諏訪西　福永春祐　梅木隼男
諏訪東　中江員幸　田中馨
天神　永田岩吉　池之上弘志
反土黑川　岩田貞男　小野重義
小陣　福島敬藏　池之上茂
第一吉原　德永實　德永文男
吉原東　原口清憲　柳田吉次
吉原後　諏訪國義　西榮
吉原西　北園豐　鶴金之助
札立　時任甲　時任半次郎
城　荒榮二　岩澤親志
ロノ町　潮戸口酋三
鐵道青年寮　村山劃
川原莊　松下重則　末吉
第一勞農　末吉幸子　末吉幸子

わすれられていた"サイレン"近く御目見え

鹽入政二さん

設置費に五万圓を投出す

戰災で焼落ちた町のサイレンが、終戰後其のままになつていたが、此の度反土吉原の鹽入政二さんよりサイレン設置購入費として金五万円の特志寄附が寄せられた

先に開かれた定例第三回町議會ではこの採納申出に對し待望久しかつただけ、又設置方要望されていたやさき感謝を以つて受理する事を可決し近く着工する事になつた

最近經濟情勢の悪化するにつれ金詰りが目立ち苦境に追いやられつつある時、町政に對する鹽入政二さんの美しい協力の姿こそ、町民一般の範鑑とすべきであろう

この設置に依つて水火災の信號は勿論、時報に依つて町民皆様が時間の觀念を再認識され、復興途上にある加治木に平和文化國家建設の再奮起が促され、サイレンの響が加治木町内の津々浦々の空に鳴り渡る日も遠からぬことであろう

當局ではこの美擧に對し、この感激の日の一日も早からん事を祈り、この功徳こそ高く評價されべきものがあると感謝されている

農地交換分合は何故必要か

"農業經營は合理化をせまられている"

問　此頃農地改革から農業改革へという事が叫ばれているが其の意味はどういう事ですか

答　其の意味は簡單に申しますと農地改革が一段落して今度は此の農地改革を土台として農業經營を合理化して行くことを眞剣に考えなくてはならない段階に來ていると言うことなのです

問　其の邊常識的には判るように思うが一つ詳しく話し下さい

答　御承知のように土地改革は外國においては早くから行われていますがそれは日本の農地改革の様に單に自作農を創設すると言う丈でなく、家產法的の政策を採用したりなどして土地改革と併せて合理的な農業經營の計畫を立てる事を目標として、土地制度の在り方、土地と農民との關係を定めた改革のやり方でしたが我國の農地改革は短い期間に成遂げなければならなかつた關係もあつて農業經營の面には殆んど觸れる事がなく單に耕作しない者の土地を耕作する者にうつしたのに止つた譯です、そこで此の農地改革を土台として更に一歩進めた方策を考えて行かねばならないし、そうやつてゆかねば今まで行われた農地改革の効果も減少するし、ひいては農地改革によつて自作農となつた耕作者が永久に自作農という地位を維持して行く事も出來なくなる虞がある譯です

問　農地改革の上に農業經營の合理化が必要な事が少し分つできましたがそれでは日本の農業經營の現狀がどうなつているかについて話して下さい

答　最初に根本的な事として考えなくてはならないのは農業經營の規模の問題です我國に於ては世界に例を見ない様な農業經營が行われており此の小農經營こそ日本農業の發展の癌であると言われております、それにも不拘戰後に於ては更に過少農化しつゝあるという事です、戰前に於ては六百万町歩の農耕地に對して農家戸數は約五百五十万戸、一戸當平均約一町一反であつたものが戰後に於ても約五百三十万町歩の農地に對して農家戸數は約六百万戸となり一戸當平均八反八畝にすぎなくなりましたこの事は經營規模が小さくなつた事を示すものであり又、昭和二十二年の經營規模別農家戸數を昭和十五年に比較すると一町歩以上の耕地を經營する農家戸數は甚だしく減少して居ます、此の事は我國農業經營を益々不利に導くものと言わねばなりません。次に問題になるのは農民負擔が相當重かつた事です、此の問題に稅金と供出の二方面から考えて行かねばなりませんが先づ所得稅から考えて見ましょう。昭和二十三年の農家の所得稅は約三百億円であつて比の負擔額を當時の農家の所に止つていたと見られる貨幣の額六百四十億円に比較すると略其の半分に當ります、之が爲農村は急激に金詰りとなり肥料や其他必需品の購入さえも困難となり金詰りも益々深刻化しつゝあることです。從來我國の農業政策は補助金政策に重点を置いていたのですが、それでは何時迄も農家經營の自立獨立性は確立されないのでドッジ氏の勧告によつて此の補助金政策を改める事になりました、そこで之からの農家經營は他力本願では資本の蓄積はおろか益々經濟的に苦しくなる虞が多分にあります次に供出及農產物の價格の問題ですが國民の必需品である主食特に米の價格について見ますと從來は前年の生產費を基準として定められて來ましたがインフレションの進行により、他の商品價格とつり合が取れなくなりましたので最近はパリティ式によつて一應定められていますものゝ農家の購入品は自由價格によるものが段々増しているので此の面でも農家經濟は相對的に窮屈になつていると見られ又主食以外の農產物の價格についても同様で農業經營の合理化によつて經營全体の收益を増す様にすることは焦眉の急務となつているのです、尙農產物の價格問題は世界の農業情勢とも大いに關連しているのです

問　それでは此の邊で世界農業の面から日本農業を眺めて見て下さい

答　此處で一番注意しなければならない事は何と言つても戰爭で打撃を受けた歐州の食糧生產が相當最近回復し而も小麥、其他穀類の潤山取れる國々では近年豐作が續いて居る事です。元來我國は食糧の自給自足は出來ないので小麥協定等に參加して外國から安い食糧を入れる事は國民生活の上には有難い事ですが日本の本當の再建の爲には消費物資の輸入より生產資材の輸入の方が有利であり、農民としては何時迄も之等の國にお世話を掛ける事が無いように、將來又輸入價格も安いから農業經營が脅迫される惧といつてゴタゴタを起す事が無い様に今から充分心掛けて農業經營を進めねばなりません、勿論我國は現在占領下にありますから世界の市場に直接結び付いているとは言えないが貿易上の制限は段々緩和され工業生產力等の回復と共に貿易量は増加し外國の安價な穀物が當然多量に入つて來る事も先づ考えて置かねばなりません

問　そうすると今後日本農業が世界農業と裸で競爭する事になる事も考えなくてはいけない譯ですね

答　其處で問題となる事は我國の農業生產力が世界のそれに比べて低いと云う事は、戰前に於ける各國の農業生產力の比較によると、農業從事者男子一人に對する純生產額に於て、日本はアメリカ合衆國の五分の一であり、ニュージーランドの二十分の一である事によつても自ら明かであり、此の様に低い我國農業生產力から來る處の低い所得と、次に先に一寸ふれた様に從來の様な農業の補助金政策がとれなくなつたこと、此のことは戰前に比べて日本の農業の安定性を少くして居ります。

而も之らは外國の農產物の價格等の影響が何の遮ぎるものもなく、直接響いて來る様になることも考えられるのです。これらの事は我々にとつて非常に心配な事です。尤も此處にもう一つ考えなければならない事は、生產力の問題と、生產費の問題とは區別して考えなければならないことです。どうもすこし難かしくなりますが、つまり日本の農業は單價勞働賃りの生產力から言えば明らかに對外競爭力は低いと云わざるを得ないが、爲替相場を通じて現われる貿易の「比較生產費」は、寧ろ有利であると云う事です。此の事は戰前内地の米作農家が朝鮮や台灣の產米に壓迫された事がありましたが、それはこれらの地域の農民の勞働の生產性が高かつたからではなくむしろ低かつたのですが、生產的にみて比較的安く生產されたからだつた事を想い起せば分ると思います。此の事で生產力が直ちに貿易の價格競爭に關係するのはない事が分る譯ですが而し此の生產量の有利さも何時なくらるか分らないのです。

問　一寸難かしくて分りにくかつたのですが、要するに此の儘では日本の農業も非常に苦しい狀態になるので、合理的な經營態勢を早くつくる必要が有ると云う譯ですね。

答　そうです。（農地委員會長）

（次號へ續く）

縣下消防團長會で美坂團長等受彰

去る六日十七日鹿兒島縣商工會館に於いて、縣下消防團長會が開催されたが、席上知事より左記消防功勞者に對し表彰狀及記念品が贈呈された

加治木町内關係者は次の通りである。尙近く傳達式が行われる

消防團幹部並に團員永年勤續者

功勞章　縣下三名

表彰者　縣下三十年以上六名、二十年以上五九名

表彰狀

鹿兒島縣加治木町消防團長　美坂銀治殿

昭和廿四年六月フェイ台風による大水害の際全員を指揮して水防に努め功勞拔群一般の範鑑であるよつて本會は茲に功勞章を贈りこれを表彰する

昭和廿五年三月卅一日

財團法人日本消防協會　會長　高橋龍太郎

表彰狀

加治木町消防團　部長　大迫平治

貴殿は三十年以上消防の職にあつて行狀方正職務に勉勵し他の模範とするに足るよつて茲に勤續章を贈呈しこれを表彰する

昭和二十五年六月十日

財團法人鹿兒島縣消防議會總裁鹿兒島縣知事　重成格

表彰狀

加治木町消防團　消防員　内村盛二

貴殿は二十年以上消防の職にあつて行狀方正職務に勉勵し他の模範とするに足るよつて茲に勤續章を贈呈しこれを表彰する

昭和二十五年六月十日

財團法人鹿兒島縣消防議會總裁鹿兒島縣知事　重成格

表彰狀

加治木町消防團　消防員　野元勇吉

以下前文に同じ

表彰狀

加治木町消防團　消防員　原口常藏

以下前文と同じ

本年度の囑託員は次の方々です

御存知の様に囑託員には、一般庶務を擔當する庶務囑託員と、勸業部面（主に農事事務）を擔當する勸業囑託員の二通りです、囑託員の職務は、町役場又は支所と町民皆様との連絡事務を擔當して居り各部落に大体二名であります、

各部落の總意に基いて推薦された方を町長が依囑する事になりますが、任務は文書の送達、掲示及傳達、事實証明、徴稅令書の送達、特定事項の調査、其の他特に町長又は支所長の命をうけた事項等であつて日夜、奮斗して居られます

本紙上より平素の御勞苦に對し厚く御禮申上げます

反土地區

（庶務）

垂之口　宇都金藏
江湖　川畑莊吉
下西町　武田又男
上西町　有馬精一
下蒲生田　川畑慶一郎
上蒲生田　桐原春夫
新町　池崎政男
仲町　大山彦一
下濱　川邊善右衛門
中濱　森元兼吉
上濱　川崎金志
今町　岩元武治
ビ沙門　岩田一郎
下新道　美坂侃
内原田　本吉原新左衛門
端山西　上別府豊
端山東　竹下敬藏
柳田東　佐藤德三
西　松下春雄
行　前田光雄
教　西行教

（勸業）

宇都金藏
武田又男
三宅義秋

懸賞募集

統計圖表と標語

來る十月一日に行われる國勢調査の完遂を期し一般の統計に對する關心を深めるため圖表と標語を募集します

振つて應募下さい

締切＝八月二十日

詳しいことは町役場統計係に御問合せ下さい

加治木保健所開廳式

來る十五日加治木保健所開廳式が擧行されるが當日は郡西部一流の余興等盛大に行われる

日木山地區

里ノ上　宮里安男
里ノ下　大坪治正
黑川日木山　和田源藏
中野　松元茂
楠原　西夫
川畑　梅木平次
弓削　緒方秋夫
長谷上　緒方武夫
長谷下　伊福春男

小山田地區

東ヒナバ　鹿屋政清
上嶽　田中優
下嶽　樗山甚藏
市野々　大嶽吉次郎
上萱薄　向江春榮
下萱薄　亨保正芳
桑迫　今村行蓬
曲田　岩崎直寺
桃木野　桃木野庄師
瀬戸口　山口助清
伊部野　日高操彦
地久里　有吉直矢
赤谷　島中光男
布越　古江藏
毛上前　犬童秀清
毛上中　岩元秀親
毛上下　猪俣島子
毛上東　中濱吉松
毛上後　大村春男
毛上麓　隈原勇夫
西茶ワン屋　日高富義
東茶ワン屋　中原健
東中郷　ブ湯川
小野　廣志明
松葉瀬　犬童秀清
文夫　竹囘政光
大迫榮助　猪俣島子
吉村　末吉一二
薩志　楠本滿志
小竹原　前田榮藏
新藏　南原鐵男
榎園　前田市二
吉村實　鶴田吉己
御狩山　山口直矢
井手向　高崎勝
高崎　日高熊吉
宮田ケ平　下津佐喜太郎
垣内光　地久里清志
文夫　犬童已好
大迫榮助　犬童已好
松葉瀬初男　地久里初吉
小竹原新藏　犬童已好
榎園明　犬童已好
榎園　犬童已好
吉村　犬童已好
薩志　犬童已好
楠本滿志　犬童已好
前田榮藏　犬童已好
犬童秀清　犬童已好
犬童已好　犬童已好
犬童已好　犬童已好
犬童已好

社會教室

加治木町教育沿革史

一七七〇年　私塾　寺小屋
一七八三年　安永四年　島津錦水公、伊藤世肅
一八七〇年　明治三年　鄉校設立　第七鄉校（仮屋馬場）　後柁城校　第八鄉校（昆沙門通）　後當原校
一八七五年　明治八年　柁城小學校ゝ改稱
一八七八年　明治一一年　永原、龍門、中野、各小學校設立
一八八一年　明治十四年　鄉立加治木中學校設立
一八八二年　明治十五年　小島小學校設立（錦江小學校）
一八八三年　明治十六年育英醫設立（私立中學）
一八八六年　明治十九年　柁城小學校別科併設（育英校と稱す）
柁城裁縫專科併設（高女學校の前身）
一八九〇年　明治二三年　郁文館設立
一八九二年　明治二五年　青雲舍設立
一八九七年　明治三〇年　有爲舍設立
明治三〇年　鹿兒島縣第常中學校第二分校設立
明治三十一年　鹿兒島縣常中學校第二分校鹿兒島縣第三中學校と改稱
明治三十四年　縣立第三中學校縣立加治木中學校と改稱
明治四十三年　姶良郡立工業徒弟學校設立
明治四十五年　實科高等女學校を柁城校に併設　加治木圖書館設立
大正三年　柁城小學校男女合併
大正五年　實科高等女學校獨立
大正六年　實業補習學校を柁城小學校に併設　加治木圖書館設立
大正十年　郡立工業徒弟學校姶良郡加治木工業學校と改稱
大正十一年　實科高等女學校町立加治木高等女學校と改稱
昭和二年　加治木中等公民學校設立　加治木幼稚園設立　郡立加治木工業學校縣立加治木工業學校と改稱
一九四六年　昭和十一年　町立加治木高等女學校縣立加治木高等女學校と改稱
一九四七年　昭和二十二年　町立加治木中學校設立
一九四八年　昭和二十三年　加治木高等女學校設立
一九四九年　昭和二十四年　加治木工業高等學校設立

農家の友"刊載によせて

加治木農業改良普及事務所　平地生

町政だよりの發刊にともない紙面の一角に農家の友として刊載されて載く事の出來ます事は、私達技術員は勿論、農家の皆樣にとつても此の上ない喜びだと思います

目下私達普及員も毎日農家の皆樣と直接技術の普及に精進致して居りますが、今一段と廣く農家の皆樣に農業技術の向上相互の連繫の紐帶としての役目、引いては農家經濟の安定福利增進を念頭に置かれまして、食糧の增産に邁進下されん事をお願い致します

扨て水稻もいよいよ本圃に移植される時期と成りました、移植期は普通六月二十日から七月十日が適當でありますが、當町に於きましては上場地帶の冷涼地帶と、下場地帶とは相當氣候的に移植期は異るのでありますが、前作物の收穫水利勞力關係を考慮して本葉が六枚位の分蘗苗の丈夫な苗を植付けます

肥料としては土地生產力の向上の面から考へても金肥に注ぎ得ず成るべく自給肥料の堆肥、厩肥並に綠肥を使用して戴きたい

普通基肥として堆肥を二五〇貫から三五〇貫位を施し綠肥のある所はそれを鋤き込む金肥はいわゆる全層施肥で荒鋤きの場合深く土中に鋤き込みます、その場合反當硫安四貫、過燐酸石灰四、五貫、を配合し鋤き込んで三、四日位したら灌水致します、これ等の肥料を最も合理的に施用して增收を圖られたい

栽植の密度については一概には言えませんが、大体現在の品種とか、肥料面と檢討して坪當り五六—七〇株が標準と考えられますが、條件の惡い水田即ち、地力の減退して居る所（やせている所）や冷涼で株張りの惡い所では、密植にして、これに反する土地では稍粗植にするのが良いと思います、又近頃一尺二、三寸と四、五寸の並木植が叫ばれている樣ですが、これも病虫害の防除とか、今後除草劑が普及して使用する場合等、作業が容易で時間的に都合が良くないかと考えます

上り、平和な國家を作りませう

日本及日本人の長所を生かし文化國家として立上りませう、日本人は皆涙をのんで生きてゆかねばなりません、と約二時間に亘り講演をなし、會衆一同泣いて敬聽したが、當日のこの催しは、本町に來た嘗てない反省と懷舊の機會を與へ、又今後の町民の人生に活を與へたように見られ、極めて意義深いものがあつた

公德者

五百余名の慰靈祭

—町婦人會で主催—

加治木町連合婦人會主催の戰時及戰後に於ける本町關係犧牲者五百余名の慰靈祭は六月十五日午后一時から錦江校講堂に於て、神佛兩式により開催された、當日は右遺族の外、婦人會合、來賓約二千名が參列し、先づ河野神官による神式祭事をなし、次で安滿住職の佛式による慰靈祭を絡へ、大井連合會長、曾木町長林議長等が弔詞を捧げ、犧牲者の靈の冥福を祈りその導きにより新しい日本建設を誓い、深い感銘を與え、遺族達にありし日の子、夫、親の姿をしのびすすり泣きの聲やまなかつた、遺族代表木佐木氏は立つて、「私共の子、夫、兄弟もこの難有い催しをさぞ滿足し、草葉のかげに感泣したと思います、私共遺族は、相寄り相扶けて、鄉土のため、新日本のため、苦しみをのりこえて進みます。」と謝意を表明した、次いで講話にうつり、鹿兒島本願寺松本師は、終戰當時まで在米した人であるが、米國の人情政策をかたり併せては本人の行くべき道を談じ之等の犧牲者は犬死でない、犬死であらしめぬ爲我々は立ち

七月中農事暦

上旬　⊙水稻田植⊙陸稻
一回乃至二回中耕除草
⊙甘藷混作秋大豆播種
⊙南瓜追肥⊙甘橘こんじらみ介殼虫（八月末迄）⊙青酸ガス燻蒸⊙びわ夏期剪定
中旬　⊙水稻除草⊙黑かめむし成虫捕殺⊙せじろうんか注油驅除⊙早生大豆收穫⊙甘藷追肥（地力に依り）⊙根深葱定植⊙午蒡追肥中耕⊙人蔘播種（唐湊、國分種）
下旬　陸稻第三回中耕除草⊙葉稻熱病銅製劑撒布⊙水稻第一回追肥⊙萎縮病株植替⊙粟播種（白髮病種子消毒）⊙秋大豆播種⊙美濃早生大根播種（下旬八月上旬）

兒童福祉週間

作品入選者發表

先月行なはれました兒童福祉週間に於て兒童の作品を通じ之が趣旨を强調する爲本町小、中學校兒童より之に關する作品を募集しました所中學校二四點小學校四七點の應募を得ましたので去る二十一日高校圖書擔任の敎官加治木高等學校井上澄德先生、加治木高等工業學校越智一先生、戸高克巳先生に對し之が審査を依囑し町長初め助役以下關係者參集し之が審査會を開催し慎重に審査をなしましたところ左記の者が入選し賞金を授與せられることになりました

本作品を通じ之が目的を達しましたことは本週間に於て學校の寄せられた好意と兒童の努力との賜物でありまして茲に紙上を以て厚く御禮を申上ますと共に龍門小學校の多かつたことに對し深く敬意を表します

入選者氏名

中學校の部　ポスター
一等　加治木中學校二年　井上淑子
二等　加治木中學校一年　西田敦子
二等　加治木中學校二年　平六
三等　龍門學校眞藤幸子
三等　加治木中學校一年　野太作
三等　加治木中學校一年　安田忠昭
小學校の部　ポスター
一等　加治木中學校一年　森作
二等　龍門小學校ポスター　佳作
二等　龍門小學校五年　佳作
龍門小學校五年　佳作
龍門小學校五年　佳作
龍門小學校六年　佳作
龍門小學校六年　佳作
龍門小學校六